

# 海外人材育成分科会からの視点 (1/2)

## \* 海外からの日本への期待

### \* 背景

- \* 原子力発電新規導入国の増加(UAE、ベラルーシ、バングラデシュ、トルコ、エジプト、ウズベキスタン、ポーランド)
- \* 単なるEPC契約ではなく人材育成・キャパビルを含むパートナーシップの要請
- \* SMRの台頭による選択肢の多様化
- \* 大規模自然災害の頻発

### \* 日本への期待

- \* 経済的で信頼性のある技術の提供
- \* IAEAのアプローチに従ったインフラ整備への協力、特に人材育成・キャパビル
- \* 研修修了証だけではなく修士号等の国際的に通用するCertificateの発行
- \* 経験の共有(福島第一L&L、耐震技術、緊急時への備え、国民・地元理解)
- \* サプライチェーン育成への協力

# 海外人材育成分科会からの視点 (2/2)

- \* 他のベンダー国(露、中、韓)と比較して日本の弱点
  - \* ベンダー数が多いため国としての一貫性に欠ける
  - \* 資金面でのOECD加盟国としての制約
  - \* IAEAを拠出金の額の割には活用できていない
  - \* 実務面での長期的研修システムが確立されていない
  - \* インターンシップ受入れが難しい
  - \* 関心の高い建設実施中のプラント、試運転中のプラント等がない
- \* 日本のなすべきこと
  - \* 日本からの協力の見せ方を工夫し受け手にとって一貫性を感じられるようにする  
(原子力人材育成NWやロードマップはそのための有効な手段)
  - \* 研修修了時の効果的なCertificateの方法を考える
  - \* 自然災害の多い唯一のベンダー国としての特性を生かす
  - \* 原子力の基礎、3Sといった普遍的な分野での地道な息の長い協力
  - \* IAEA等国际機関に対して資金だけでなく、より人の協力も
  - \* 長い経験に基づく技術の評価の仕方を伝える
  - \* 日本一か国だけで完結せずとも他のベンダー国と共同して協力を実施